**令和元年度第２回　大船渡市復興計画推進委員会　議事録**

**日　時：令和元年１０月２９日（火）１３：３０～１５：３０**

**場　所：シーパル大船渡　大会議室**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **次第** | **発言者** | **内　　　　　　　　容** |
| **１ 開会** | **事務局** | 皆様方にはお忙しい中ご出席いただきましてまことにありがとうございます。  ただ今から、令和元年度第２回復興計画推進委員会を開会させて頂きます。  議事に入るまで進行を事務局が務めさせていただくので、よろしくお願いいたします。  本日は都合により長坂委員、廣澤委員、佐々木委員から欠席の連絡が来ております。  ここで市長からごあいさつ申し上げる。 |
| **２ あいさつ** | **市長** | 本日は遠くからお越しいただきました、塩崎委員長をはじめ遠路おいで頂きました。ありがとうございます。委員の皆様には常日頃より市政にご理解・ご協力を頂きましてありがとうございます。  東日本大震災から８年７ヶ月経ち、復興事業も終盤を迎えている。皆様と一緒に前進していきたい。  先日10/13には台風19号が通過した。大船渡でも大きな被害があったがさらに大きな被害が報道されているところである。大船渡市の被害は調査中だが、ほぼ最終結果が出ている。  Ｗ杯ラグビーは決勝を残すところまで来た。釜石では１試合が終わったところで、10/13の試合は残念なことに中止となった。それでも国内外から多くの人々が訪れ、前後の日は大船渡も賑わった。  それにあわせて、秋篠宮両殿下も大船渡市に来訪され、大船渡の中心部の復興状況について説明させていただき、その後に試合会場に向かわれた。大船渡市の復興状況を見て頂いたのは光栄の至りである。  今回の資料は趣向が変わっている。これまでの復興をまとめ、意見･評価をもらえるようにしている。  忌憚のないご意見をいただきたい。 |
| **塩崎委員長** | ここは東日本大震災の復興を議論する場であるが、2ヶ月で３つの豪雨があり大変なことになっている。今後ともこういう大災害は減らないのではないかと思う。大震災、災害が複数やって来かねない。いっそう気を引き締めてこの問題にあたっていかねばならない。  今日は宜しくお願いします。 |
| **３　議事**  **⑴報告** | **事務局** | 次に、本日の会議資料の確認をさせていただきます（資料１～８、協議資料１、２を確認）。なお、本日資料５をお配りさせていただいた。差し替えをお願いする。  それでは、次第３の「議事」に入らせていただきます。  ここからは規定により委員長が議長となる。塩崎委員長、よろしくお願いします。 |
|  | **塩崎委員長** | 本日の会議は、概ね1時間を目安に途中で休憩をはさみ、進めていきたいと思います。  それでは、議事⑴「大船渡市復興計画事業の進捗状況等」の①復興計画事業全般及び主要事業スケジュールについてと、②防災集団移転促進事業について、③土地区画整理事業及び津波復興拠点整備事業について、④災害公営住宅等の被災者支援について、事務局から報告をお願いします。 |
|  | **復興政策課** | ①全般及び復興計画事業（主要事業）スケジュール  （資料１・資料２説明） |
|  | **復興政策課** | ②防災集団移転促進事業  （資料３説明） |
|  | **市街地整備課** | ③土地区画整理事業及び津波復興拠点整備事業  （資料４説明） |
|  | **塩崎委員長** | ④については、次の⑤と関連があることから、一旦ここで切って、ここまでに関して質問、意見をいただきたいと思う。  では私から、これまで事業が延びるということが多かったが、１年早く終わるのがあって珍しかった。  おおふなぽーとのロゴマークを３つ決めたとのことだがどのようなのか。 |
|  | **市街地整備課** | 大船渡高校、大船渡東高校の美術部に依頼してＷＳ形式で考案した。おおふなぽーとを視覚的にも親しみやすいものを考案してもらったが、ロゴマークとなり、３案を３つとも採用となった。 |
|  | **鈴木委員** | 資料１の「着手済み（４）」に分類されている事業が11％あるが、そこの今後の見通しはどうなっているか。 |
|  | **復興政策課** | 「着手済み（４）」の11％は概ね残事業であり、令和2年度末に工事完了に向けて進捗管理している。若干、県工事等の影響で遅延するかもしれないが、現在の見通しでは令和２年度末に完了する。 |
|  | **市長** | 「着手済み（４）」は「もしくは軌道に乗っていないもの」という記述が疑念を生むのではないか。これは表現を見直しだと思う。 |
|  | **市長** | お手許に配布した資料１の詳細を見ると、「まだこんなに仕事をやっているのか」と思われるかもしれない。しかし、これらは復興創生期間が終われば完了になる性格のものである。最後までかかるものもいくつかある。という風にご覧いただきたい。 |
|  | **塩崎委員長** | １年延びるものもあるが、大体期間中に終わると思って良いか。 |
|  | **復興政策課** | 復興庁とも協議をしているが令和３年３月には完了する見込である。 |
|  | **塩崎委員長** | 次に進みたい。事務局から④災害公営住宅等の被災者支援について、⑤被災者に対する相談や見守り等の各種支援について、⑥移転跡地利用計画について、⑦復興記録誌の作成について、報告をお願いする。 |
|  | **住宅公園課** | ④災害公営住宅等の被災者支援について  （資料５説明） |
|  | **地域福祉課** | ⑤被災者に対する相談や見守り等の各種支援について  （資料６説明） |
|  | **土地利用課** | ⑥移転跡地利用計画について  （資料６説明） |
|  | **復興政策課** | ⑦復興記録誌の作成について  （資料８説明） |
|  | **塩崎委員長** | 今の説明について質問やご意見をいただきたい。 |
|  | **江刺委員** | 私からは被災者支援・相談・見守りについて提案・質問したい。こちらは復興計画推進委員会なので令和３年３月末までの話になるが被災者は高台移転や自立移転先で地域にとけこんでいるところなので、移転先の地域でのサポートはますます必要になってくると思う。  今、話を聞いた中で集落支援員が地域公民館をサポートしているとの話かと思う、コミュニティサポーターも被災者と住民をつなぐつながりを濃くするものだと思う。これらは所管が異なるとのことだが、住民をサポートする  上では一つのものなのではないかと感じる。担当課が違っても横連携が取れているべきだと思う。将来の大船渡を考えると重要なことだと思う。  こうしたものを横串で担当者の情報交換を行う場があってもいいと思うが、そういうことはやっているのか。  提案としては住民さんたちを集めて、そこにサポートに係る人を混ぜて普段から仲良くして相談できる場を作って欲しいと思う。集落支援員、コミュニティサポーター、パーソナルサポーター、生活支援コーディネーターなど。社協のほうでは民生委員や少年指導委員などもある。いろんな組織があるけど、みんなが一緒になってまぜこぜで顔がわかるような場を作ってもいいのではないか。住民サポートを考える場合、福祉とまちづくりを分けずにやっていく必要がある。地域づくりに深く入って横の話し合いを進めてもらいたい。 |
|  | **塩崎委員長** | ４つの市民生活支援が相互にどういう関連になっているのか。  高齢者支援について不思議なのだが、年度ごとに地区を１回やったら終わりなのか。盛町の人は該当年度が終わったらどういう支援を得られているのかがわからない。  これは所管別に書いているのかと思う。そこらへんを説明して欲しい。 |
|  | **地域福祉課** | 江刺委員からお話があった部分についてその通りだと思う。これまでも市民団体・機関と連携をとっていて、応急仮設では応急仮設支援協議会を組織し、連携をとっていた。応急仮設の解消により、その組織は解散したが、後継として生活支援連携会議で情報交換を行っている。情報交換、連携が重要ということで、課題認識はしており、十分連携を図りたい。  塩崎委員長のご指摘の通り、担当部所別に作っている。パーソナルサポート支援は地域福祉課が共生地域創造財団に委託している事業、生活支援員は社会福祉協議会、高齢者の支援は長寿社会課、健康支援は健康推進課が担当している。これらはそれぞれセクションごとに書いていて、単発で連携が取れていないように見えるが、これらは実務者会議とか支援協議会を通じて連携をとっている。 |
|  | **塩崎委員長** | 高齢者支援はそれを一回受けたら終わりなのか。違うサポートが別の角度から支援が入っているのか。 |
|  | **生活福祉部長** | 高齢者支援は地区ごとに訪問して、高齢者の基本チェックリストを整理して要支援状況をチェックし、その把握内容に基づいて支援を行っている。  把握したデータを下に必要に応じて、保健師の配置などを年度ごとに行っている。 |
|  | **塩崎委員長** | 鳥取県災害ケースマネジメントみたいに人ごとにできないか。この人この支援とこの支援が必要だというように。そういう形がいいように感じる。 |
|  | **家田委員** | 確認したい。資料１で防集事業については金額が載っている。資料７では土地の買取とそこで何をするかが出ていて、概算事業費が出ているものもあれば、まだ検討中のようなものもある。事業費で残っているのは、まだはじいていないのはどのくらいあるのか、また、買取費は先ほどの防集の金額の中に入っているのか。補足で教えて欲しい。 |
|  | **復興政策課** | 防集の事業自体として残っているのは中赤崎スポーツ交流ゾーンの追加買取が残っている。 |
|  | **家田委員** | 買取費が入っているのか、斜線部は計算されているのか。  資料１、資料７で事業費が出ているところと出ていないところがある。総額が書いてないし買取費がいくらかも書いていない。資料として揃っていないとどこを信じていいかわからない。 |
|  | **復興政策課** | 後で調べて回答する。 |
|  | **鈴木委員** | 資料５についてだが特定延長になっている人が市内みなし仮設は０戸で市外みなし仮設が９戸いることの理由と、それらの人は大船渡市に帰ってくる意向なのか。 |
|  | **住宅公園課** | みなし仮設にいらっしゃる方々は盛岡市にいらっしゃる方は盛岡市、北上市の災害公営住宅の完成を待っている。最終的にはそれぞれの災害公営住宅が行き先になる。特に盛岡市の災害公営については令和２年度末の完成予定となっているのでそれらに入る方は特定延長の再々延長になっている。 |
|  | **新沼(真)委員** | 資料７の赤崎の防災交流拠点について、検討しているところが漁村センターとのことだが、そこからの避難経路、そして他の防災拠点施設との違い、学校の余裕教室の活用という案はなかったのか。この三点について教えて欲しい。 |
|  | **防災管理室** | 防災交流拠点は地元で、防災に関する交流について要望があったので、漁村センターを有力な場として考えている。ここでの避難経路については今後の運営の中で考えたい。  学校の空き施設利用については今現在考えていない  他の施設との違いは津波だけが災害ではなく、台風や土砂災害等も含めて災害について学べる場と考えている。今後は官民会議の中で他の施設との関連も含めてどういった流れで防災教育ができるか考えていきたい。 |
|  | **市長** | 市内に津波に関する施設はいくつかある。まず博物館。過去の津波の写真記録などがある。２つ目は防災観光交流施設おおふなぽーとの展示施設で、展示施設が空きの日だけ大船渡津波伝承館の齊藤賢治さんが私的な立場でやられている。ただし常設ではない。３つ目が消防署、新しい防災センターにもいくらか展示されている。今回の千年に一度といわれる大震災を経験した市としては復興のメッセージを後世に送るということ、加えて災害はそれだけでなく川からも山からもやってくる。そういったものの勉強の場として位置づけている。 |
|  | **新沼(真)委員** | 保護者の立場で言うと、浸水した学校から離れたのに、震災のとき孤立した漁村センターに、あえてまたリスクを抱えながら学びにいって、そういう所にあえて行って勉強するというのが親の立場からすると不安なところがある。場所が漁村センターと決まっていないのであれば、空き教室を活用して頂ければ６個くらいメリットがあると思う。自主防災とか防災を通じた地域との交流の拠点。転勤した先生も学校に居ながら学べる、浸水した学校だから学べる。日頃市中学校、吉浜小学校も空き教室があるところは土砂災害を学べる。そういうことで学校教育に活用できる。図書館のように普段から子供が学べるのが良いのではないか。何より、浸水時に孤立の恐れのない所に作ってもらいたい。  観光客を対象とするのか、誰を対象にするのか、それによって立地条件等いろいろあるかと思うが、もしものときは逃げなければいけないということを地元の人に伝えるのであれば、地元の人が行きやすい空き教室の活用も考えてもらいたい。 |
|  | **江刺委員** | 私は赤崎には家はないが、赤崎復興隊に入って色々考えている立場にある。その中でこれから先のことを考えた時に、３つの案が出てきた。その中のひとつが漁村センターを防災と交流のセンターとして活用する案だ。漁村センターの良い所はあそこで実際に避難して苦労した場であるということ、そして周辺に住んでいる人の直の声が聞けるということ。これはほかではない利点だと思う。こういうところからも地域から漁村センターを学習の場としていきたいという意見が出て今に至っている。 |
|  | **塩崎委員長** | お二人の意見を勘案して、市でしかるべき検討を進めて頂きたい。 |
|  | **防災管理室** | 官民会議の中で検討させて頂きたい。 |
|  | **佐藤(隆)委員** | みなし仮設の市外移転が多い。行政斡旋型と自己調達型の内訳はわかるか。 |
|  | **住宅公園課** | 内訳までは把握していない。市外みなし仮設に関しては県が主導して業者を通じて斡旋を行っている。大船渡市は結果を情報共有している状況になっている。 |
|  | **佐藤(隆)委員** | 資料６に関して、今後、制度が変わる中で包括ケアシステムに載せていく方向で検討してはどうか。 |
|  | **生活福祉部長** | その通りかと思う。これまでは被災者に特化した形で様々な支援をしていたが、これからは一般策で見守りをしていくようにしたい。 |
| **佐藤(隆)委員** | 資料７に三陸大王杉のルート云々という記述があったが、ルートに当たる部分は道を整備すべきだと思う。あれは日本一だという現地の噂もある中、屋久島の方が樹高・幹周りが大きいので日本一ではないが東北では４つくらいしか縄文杉はない。ルート作りとしてポプラ広場から上がっていくための整備を是非すべきだと思う。これはそういう取組みは入っているのか。 |
|  | **鈴木委員** | 多分、階段は整備には入っていない。 |
|  | **災害復興局長** | 資料７の見方についてだが、青色表記が市の事業。黄色表記が県事業。赤みがかったピンク表記のものは地域で取り組む事業ということで、まちづくり委員会でポプラ広場と大王杉に行くルート整備を考えている。 |
|  | **鈴木委員** | 地域で出した問題ではあるが、地元では階段作りまでは無理。県道までは市で整備して欲しい。鳥居は地域で直したし、草刈は地域で行った。階段まで地域では整備できないので、できれば市として整備して欲しいのが本音。 |
|  | **佐藤(隆)委員** | ぜひそうしてもらいたい。 |
|  | **鈴木委員** | 屋久杉は暖かいのであそこまで生長できた中、大王杉は寒冷地でもあれだけ育っている貴重なものだと思う。 |
|  | **観光推進室長** | 大王杉は文化財として教育委員会が周辺整備しているが、観光ルートという考え方でいうと、潮風トレイルとして世界各国に情報発信して、その中で一つ一つの拠点となるところについては所管と協議して進めたい。 |
| **⑵協議** | **塩崎委員長** | 休憩なしで進める。  協議事項が残っている。これについて事務局から説明をお願いしたい。 |
|  | **復興政策課** | ①復興計画事業全般における課題等の整理と復興の方針ごとの評価のとりまとめについて  （協議資料１、協議資料２説明） |
|  | **塩崎委員長** | ありがとうございました。  今の説明について質問やご意見をいただきたい。 |
|  | **家田委員** | ご苦労様。もう10年経とうとしているのでこういう取りまとめも重要でご苦労なことだと思う。  全般的に「なんとなく良かったのではないか」というレポートになっているので、これでは次世代に引き継ぐにはどうかと思う。なんとなくまとめる部分と、もっとびっしり書いておく部分、別途作っても良いのかもしれない。血の通ったレポートにして欲しい。「震災後に近隣の市町村と連携することはできないかとお話したがなかなかできなかった。それでもここまでできた、けどもう少し連携すればよかった」など。  また、陸前高田市は大きな盛土と国営公園を作ったが、大船渡市は被災が限定的なこともあって、リーズナブルにできたと言えるのではないか。隣近所のことを見るとどうなのかということをほとんど書いていないことが惜しいと思う。  高台移転は結果としては細かい拠点がたくさんできたが、今後、被災があろうとなかろうと減っていく人口の中で、拠点的にまとめていくのが望ましい。岩沼市は複数の集落をまとめて高台移転を行い、拠点性が高まったが大船渡市はそうはいかなかった。またＢＲＴの話が出てこないがＢＲＴにした結果どうだったかという問題もある。ＢＲＴ化した結果を大船渡市としてはどう考えているのか。使っている人たちの意見とか。そういうのが出てこないので血が通っていないように思う。  統計値も岩手県沿岸地域の平均値と比べるとどうなのかという、相対視をするという視点もあってもいいのではないか。  辛口なことを言ったが、ひとえに苦労したことを苦労したと反省とともに残すのが次世代への責任でもあるし、皆さんの苦労に報いることでもあると思う。 |
|  | **堀篭委員** | ２つの協議資料に「課題」という語が出てくるが、その「課題」の意味を突き詰めて検討することが必要かと思う。  協議資料１の「課題」というのは、「復興計画が終わるまでの課題」と「復興計画が終わってしまった後も残る課題」もあると思う。協議資料１では分けて書く必要がある。来年度末までに終わらせる課題と、終わらない課題は総合計画に引き継ぐべき事柄に書くべきで、そこを分ける必要がある。  協議資料２の｢課題」は復興記録誌に載る課題で、１つは10年間やったがこういう部分が残ったという意味の「課題」で、総合計画に載るべき課題と同じものだし、もう１つは10年間やったけど途中のプロセスも含めてこういうことをもう少し上手くやればよかったという課題。今後のブラッシュアップではそういうところも意識しながらまとめていくのがいいのではないか。  県全体との比較については県から復興レポートというのが出ているので、県のデータと市の資料とどう違うか比較するというのもあるのではないか。 |
|  | **澤田委員** | お二人と同じだが、成果で「住宅再建ができた」と書いてしまうと「そうだよな」ということで面白くない。実際のプロセスの中で成果をより良くしたり、課題を小さくするために、途中で変えていくなど計画を進めてきた中での工夫をきちんと見せたほうがいい。  協議資料２の防集の書き方として10区画の空き区画があることは課題にも見えるが、他と比べるとこれでおさめることができたのはすごいことだと思う。これはある意味成果かもしれない。  資料５でいうと公営住宅は70戸くらい完成時で余っていて、解決策が無いというのもあって、そこを整理して議論するというのも必要だと思う。  ＢＲＴも早く決断したので利用者がこれだけのものになったと思う。そういうことも含めて整理することが復興検証になるのではないかと思う。「そりゃそうだな」というところを飛び越えて作っていくことが必要。 |
|  | **塩崎委員長** | 私の感想だが家田先生の言うこともやっていかなければいけないが、前提として被害状況や残っていた公共施設、地形や土地の条件があって、「本来ならこうすべきだったことをどこまでできたのか」という視点で作成すべき。  資料の１や２など、やるべき仕事の何％ができたかという視点になっていて血が通っていないというか、面白くないという感じになっていて、そのへんはこれから議論していけば良い。どんな被害でそれに対してどんなことをやって何ができたかということをまとめていく必要がある。復興計画の各柱ごとの事業がどこまでできたかということが書いてあるだけで、前提のことがわからない人が見たら「75点」かくらいの話にしかならないので、もっと立体的に書く必要がある。 |
|  | **鈴木委員** | 同感。それなりの高台移転に関する試行をしたし苦労した。そこは大集団でなく地域ごとに移転したので現在は空き区画がないということだと思う。コミュニティを守るために移転した結果が空き区画の少なさに繋がっているという整理をすべきだと思う。  協議資料２は年度を見ると最新年次がまちまちになっているが、浅海水産物はH28の数値で最後になっているが、H29・H30は落ち込んでいる。資料を見ると右肩上がりにみえるが、近年下がっているものがある。復興期間中の捉え方としては良いかもしれながいが、今後、将来を見据えた取り組みとして力点を置いて書いて頂きたい。 |
|  | **家田委員** | ここまできたらこういうことを言ってもいいのではないかと思うが、悲惨な被災で、苦労に告ぐ苦労でここまで来たが、結果として震災前より良くなったのか、悪くなったのか。チャンスとしては国道45号が高規格化されてスピーディーに動けるようになった。また復興支援道路によって内陸へのつながりが良くなるなど改良がすすみ、利便性は上がったように思う。地域の努力が実りやすい作りになっている。大船渡駅の近所を見てみれば、良くなった。4,000億円使って、汗をかいたことで震災前より良くなった所もあるということ、そして交通軸が変わったことでチャンスもあるということをまとめたほうが良いかと思う。 |
|  | **新沼(真)委員** | 協議資料１の裏面の防災まちづくりの「津波避難ビルの指定」についてどこがされていたのか。  大船渡防災観光交流センターが県外から来た方々がもしものときにあそこに逃げれば良いと思っている人が多い。新聞に載っていたように、ここは逃げる所でないとその日に掲示したとのこと。いざという時に役立つのか疑問。平素から模造紙などにイラストで書いておけば、ここが避難所ではないということが子供でも外国人でも理解できると思う。サイレンがなり、冷静さを欠いている時に、一瞬で避難所ではないということがわかるようにしておくことが教訓を伝える当市の役割だと思う。 |
|  | **防災管理室** | 津波避難ビルはH30年度に４つ指定している。防災観光交流センター、野々田アパート、みどり町アパート、サンリアを指定している。指定の条件として24時間利用ができることと、速やかに避難できるよう外部からの避難可能な階段があることがあり、合致している４箇所を指定している。  避難所でないことのお知らせについてはいろいろな手法がある。提案された方法も含めこれから研究して対策を執りたい。 |
|  | **佐藤(隆)委員** | 相対比較については県がまとめているものがいくつかある。いわて復興インデックス報告書など。  これで震災発生６年後からの人口減として「沿岸地域が何％減った」とか整理されているが、これと大船渡市の人口動態を比較すると、大船渡市は半 |
|  |  | 分しか減っていないという比較もできるので、沿岸部はどれくらいという比較をしていくと大船渡の努力がデータに現れているというように見えるので工夫して欲しい。 |
|  | **塩崎委員長** | 埒外かもしれないが、復興計画をやってきた側の問題、つまり役所の体制。どんな体制でやってきたかなど。淡々とやってきたわけではなく相当のたうち回ってやってきたのではないか。それはこの枠組みではでてこないのか。 |
|  | **復興政策課** | 本日ご提示している資料は復興計画に対してどれだけ成果が上がったかを示している。今日様々ご意見を頂いたが、全て参考にしていきたい。その他に地域の人へのインタビューなども含めて記録誌でまとめたい。これ含めてブラッシュアップした上で復興記録誌で触れていきたい。 |
|  | **市長** | 貴重な意見を頂いた。作業をしていると作業に集中してイメージが作業そのものになってしまう。そういうものを第三者的にコメント頂いた。非常に貴重な意見を頂いた。今、協議資料２で示したのは結果であって、そのプロセスで我々が苦しんだこと、改善したこと、教訓などいろいろある。復興計画を推進するうえで様々な帳票をつくった際も0.1のレベルの帳票から0.3にして最後に1にしたという帳票もある。様々な苦労がこの背後に隠れているので、その苦労を文章に表すことを是非やっていきたい。これには無い、本部会議での生々しい記録なども将来への記録になる。知恵を入れ込む余地があるのでやっていきましょう。 |
|  | **佐藤(隆)委員** | 他の地域では例がないなど評価は高い。 |
|  | **塩崎委員長** | これから一年かけてやってもらいたい。 |
|  | **市長** | さきほど新沼（真）委員から頂いた意見は新鮮だった。こういった見方もあるかとどきっとした。一方で考えてみると中赤崎の地域の思いはよくわかる。島状に取り残されて100人から避難している。そこからアメリカのヘリコプターで食料等を運んでもらうなど、赤崎の方々のあの施設に対する思いは深いと思う。  津波が来たらどうするのかということは赤崎の話だけでなく、我々全体の話で、我々は津波の危険がある場所で生業をしている。そういう風に考える哲学を持てば、別の考え方も出るかと思う。ご指摘ありがとうございました。 |
|  | **塩崎委員長** | それでは事務局よろしくお願いします。 |
| **４　その他** | **事務局** | 今年度の復興計画推進委員会は２回で終了。  来年度は復興計画期間の最終年度ということで、復興の評価の取りまとめを中心に、年度末の復興記録誌の発行に向けご意見を伺いながら進めていきたいので、開催回数を増やす形で調整させて頂きたい。ご多忙のところ恐縮ですが、出席をお願いしたい。 |
| **５　閉会** | **事務局** | これをもちまして閉会いたします。委員の皆様には大変ご苦労様でした。 |